

2015年2月25日

公益社団法人 日本証券アナリスト協会

シニア・プライベートバンカー (PB) 筆記試験 (2014 年秋) の結果について

- 公益社団法人日本証券アナリスト協会では、シニア・プライベートバンカー (シニア PB<上級レベル>) 資格の筆記試験 (投資政策書の作成)・2014 年秋試験^(注) に関し、PB 資格試験委員会 (委員長: 新井 富雄 東京大学 金融教育研究センター 副センター長) の審議を経て、次のとおり合格者を決定した。

シニア PB 筆記試験・2014 年秋試験の受験者 40 人 (答案提出者) について、採点・合否判定の結果、合格者は 9 人、合格率は 22.5%であった。合格者 9 名は、所定の実務経験を積んでおり、シニア PB 資格が付与される。

なお、昨年までの合否判定結果と合わせた累計では、受験者数 117 名、合格者数 27 名 (=シニア PB 資格認定者)、合格率 23.1%となった。

【参考】シニア PB 合格者・累計 (27 名) の内訳

〔所属〕		〔保有資格〕	
銀行・信金	9 名	CMA (当協会検定会員)	16 名
証券会社	8 名	CFP・1 級 FP 技能士	11 名
公認会計士	2 名		(CMA との重複 3 名)
投資運用	1 名		
その他金融	3 名		
その他	4 名		

(注) シニア PB 筆記試験は、3 単位のコンピュータ試験に合格した者を対象とする試験で、課題として与えられたケーススタディについて、在宅で投資政策書を作成して提出する形式。シニア PB 筆記試験の受付・出題は、2014 年より年 2 回 (春、秋) に集約しており、今回は年 2 回集約後のはじめての合否判定。

筆記試験に合格し一定の実務経験 (CMA 以外は 2 年間の PB 関連の実務経験が必要) があれば、シニア PB 資格が付与される。

なお、投資政策書は、事業オーナーなど富裕層ファミリーのミッションを実現し、次世代以降へ事業や財産の円滑な移転を図るための提案書で、金融、不動産、自社株から税務、家族の夢の実現に至るまで目配りの利いた包括的な顧客最適な提案が求められる。その作成は、多岐にわたる高度な知識が必要なのはもちろんのこと、各分野の専門家との連携も含め、プライベートバンカーとしての総合力が問われる。

【本件に関する照会先】

公益社団法人 日本証券アナリスト協会

PB 教育担当

Tel: 03-3666-1438

Email: pb@saa.or.jp

以上

(参 考)

シニア PB 筆記試験・2014 年秋試験の答案の特徴について

○ 今回のシニア PB 筆記試験・2014 年秋試験の答案については、次のような特徴が見受けられました。

▽ 全体として答案の内容が改善され、レベルアップしている。一方で、引き続き、金融資産運用提案のない答案が目立つ等、改善すべき点も残されている。

<改善が目立った点>

- ・ 自社株評価等の計算ミスが大幅に減少。
- ・ 提案書として見やすさが工夫されている答案が増加。
- ・ 今回の課題の一つである海外子会社の再編については、対応策としての方向に違和感のないものが多かった。

<改善すべき点>

- ・ 提案内容が事業承継に偏りすぎている答案が少なくない。
- ・ 金融資産運用やファミリー全体（ファミリーミッション）に対する配慮が足りない答案が目立った。

▽ 協会としては、投資政策書のレベルアップのため、引続きセミナー、スクールの内容充実に注力していきます。

〔 なお、本件については、照会・質問等には一切お答え出来ませんので、ご了承ください。 〕

以 上